



日本シイエムケイ株式会社  
(証券コード：6958)

# 2018年3月期 決算説明会資料

2018年 5月22日

日本シイエムケイ株式会社

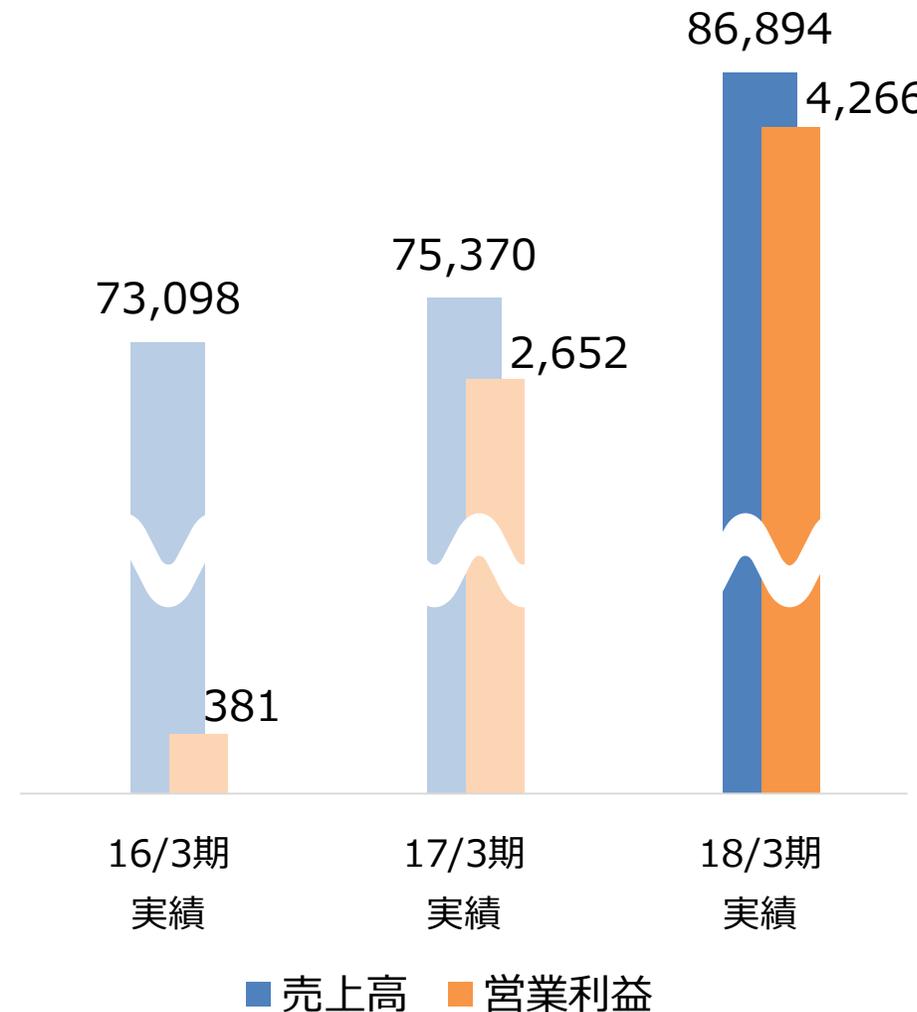
1. 2018年3月期 連結業績
2. 2019年3月期 連結業績見通し
3. 車載基板市場の動向について
4. 中期経営計画について
5. 補足資料

# 1. 2018年3月期 連結業績

# ①決算のポイント

- 自動車の電装化進展などにより、主力の車載向け受注が大幅に増加
- 工場の生産能力拡大と生産性向上を同時に推し進めた結果、収益性も改善
- 材料価格上昇等の影響を受けたものの、営業利益率は4.9%まで改善

(単位：百万円)



## ② 連結損益



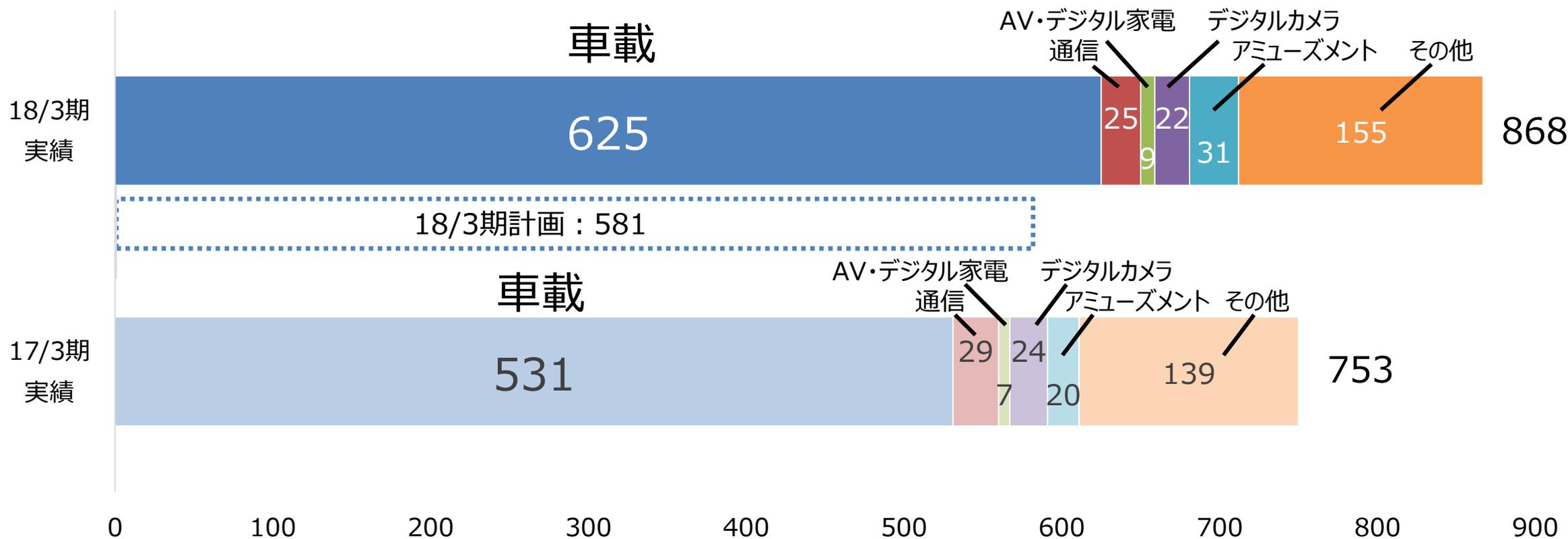
(単位：百万円)

	17/3期 実績	18/3期 実績	前年同期比		計画比	
			増減	増減率	計画	差異
売上高	75,370	86,894	+11,523	+15.3%	80,000	+6,894
営業利益	2,652	4,266	+1,614	+60.9%	4,000	+266
率	3.5%	4.9%	+1.4%		5.0%	-0.1%
経常利益	2,628	3,917	+1,288	+49.0%	3,700	+217
当期純利益	2,153	3,638	+1,485	+69.0%	3,000	+638
ROE	4.5%	7.2%	+2.7%		6.1%	+1.1%
平均為替レート (USD/JPY)	109.28	112.04	+2.76	+2.5%	110.00	+2.04

※「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」として記載

### ③用途別売上高

(単位：億円)



- 自動車の電装化進展が追い風となり、車載向けは期初計画を上回る売上を達成
- 人気のゲーム機向け受注により、アミューズメント分野が増加

## ④ 海外生産能力増強

18/3期能力増強（2Q決算説明会資料再掲）

タイ



CMKタイ（両面・多層貫通・ビルドアップ）

- 車載中心に受注が旺盛な状況
- 17/9末で前期比30%の生産能力増強完了  
（当初予定より前倒し）

中国



CMK無錫（ビルドアップ）

- 車載向けでビルドアップ配線板の採用が増加
- 17/6末で前期比30%の生産能力拡大完了

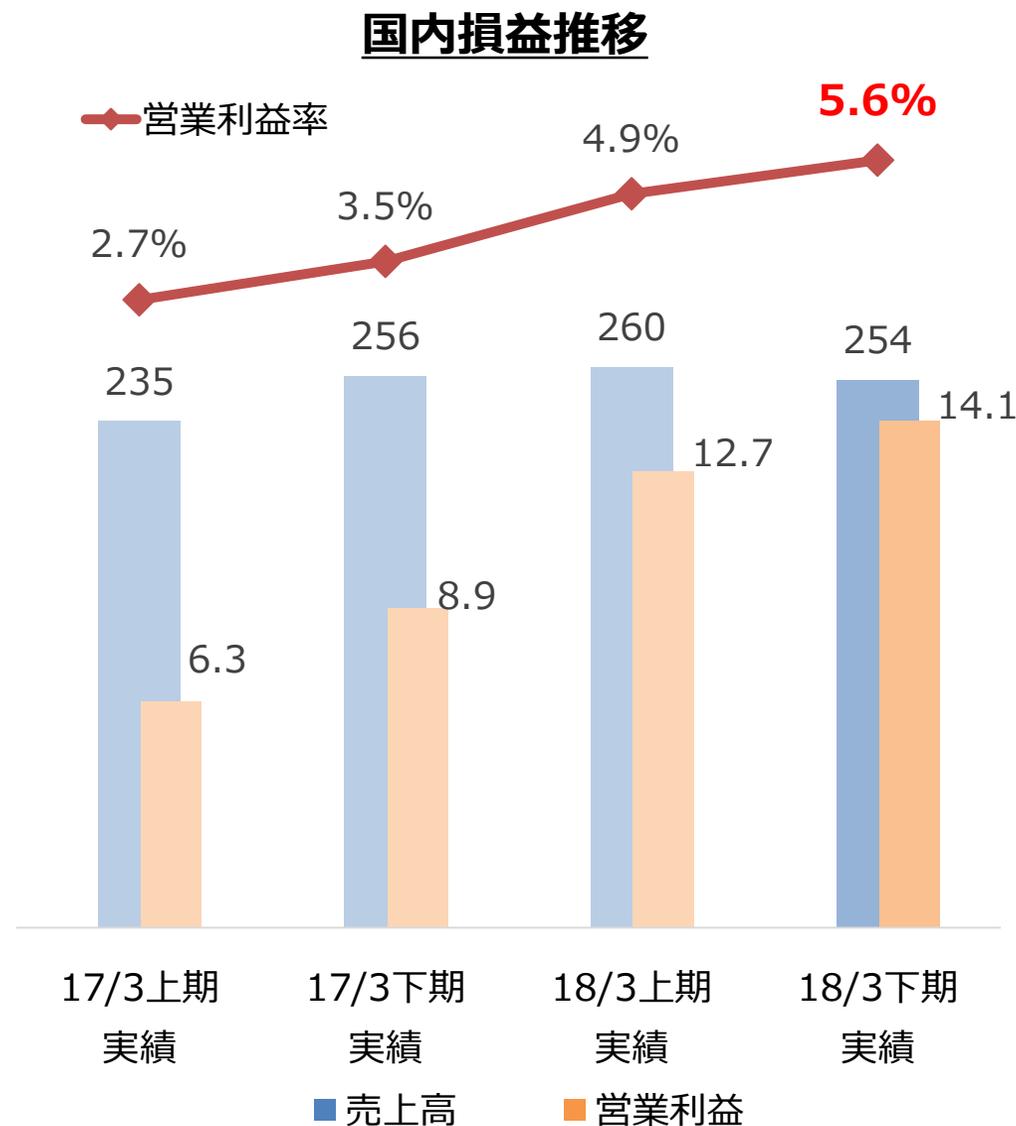


旗利得電子（両面・多層貫通）

- 車載向け工場で、フル稼働状態が継続

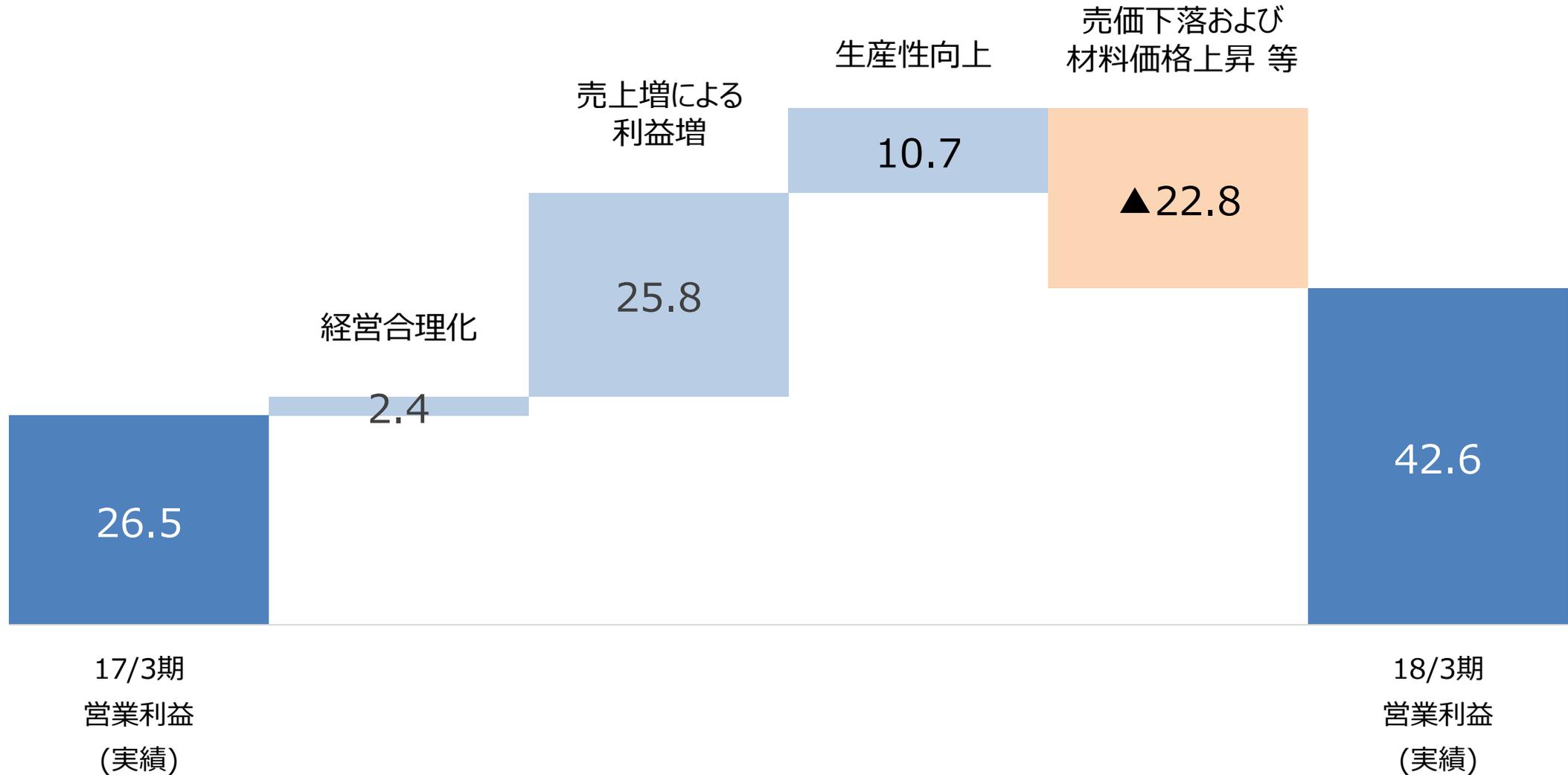
## ⑤国内生産性向上

- 17/3上期に国内生産拠点の集約を実施
- 17/3下期以降、新潟工場を中心に生産性向上プロジェクトを開始
- フル生産が継続する中、単位当たりの原価低減が進み、国内営業利益率は全社平均を上回る5.6%まで改善



# ⑥ 営業利益増減分析

(単位：億円)



## ⑦ 配当金

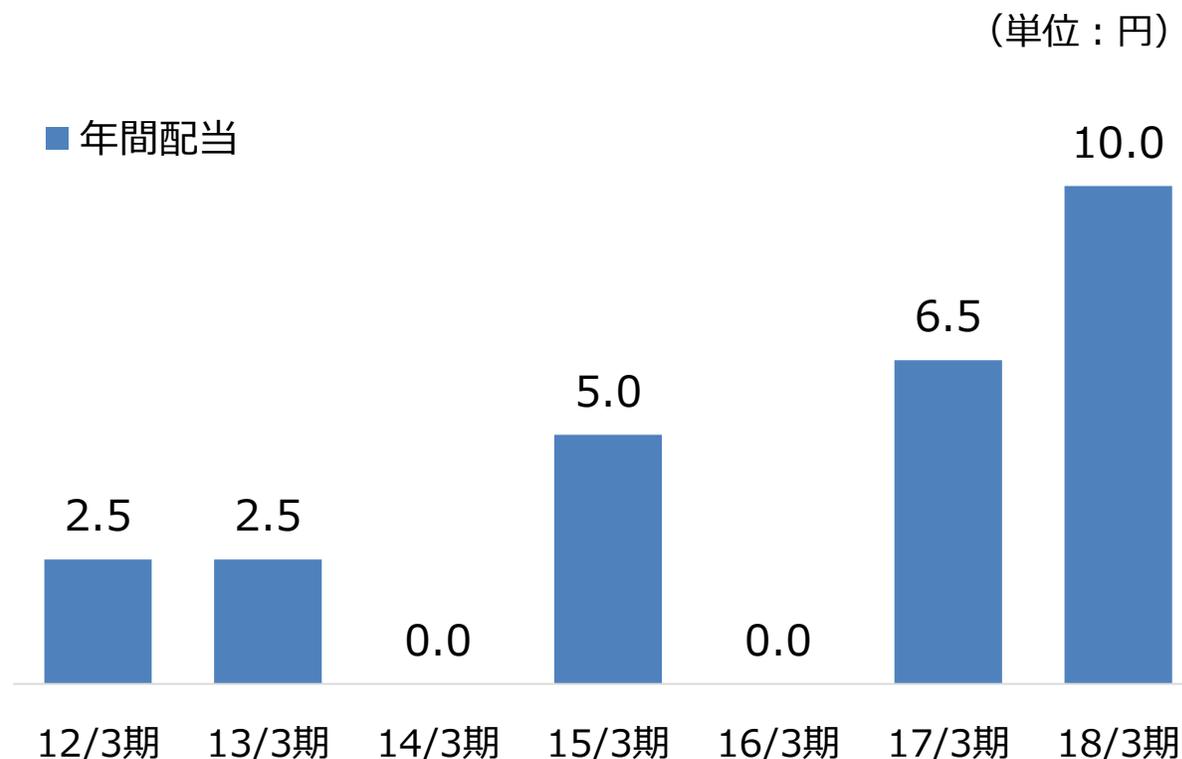
### ■ 基本方針

経営体質の強化と将来の事業展開のために必要な内部留保を確保しつつ、業績や財務状況等を勘案した上で、安定的な配当を継続して実施

### ■ 配当金

18/3期  
年間配当  
(1株あたり)

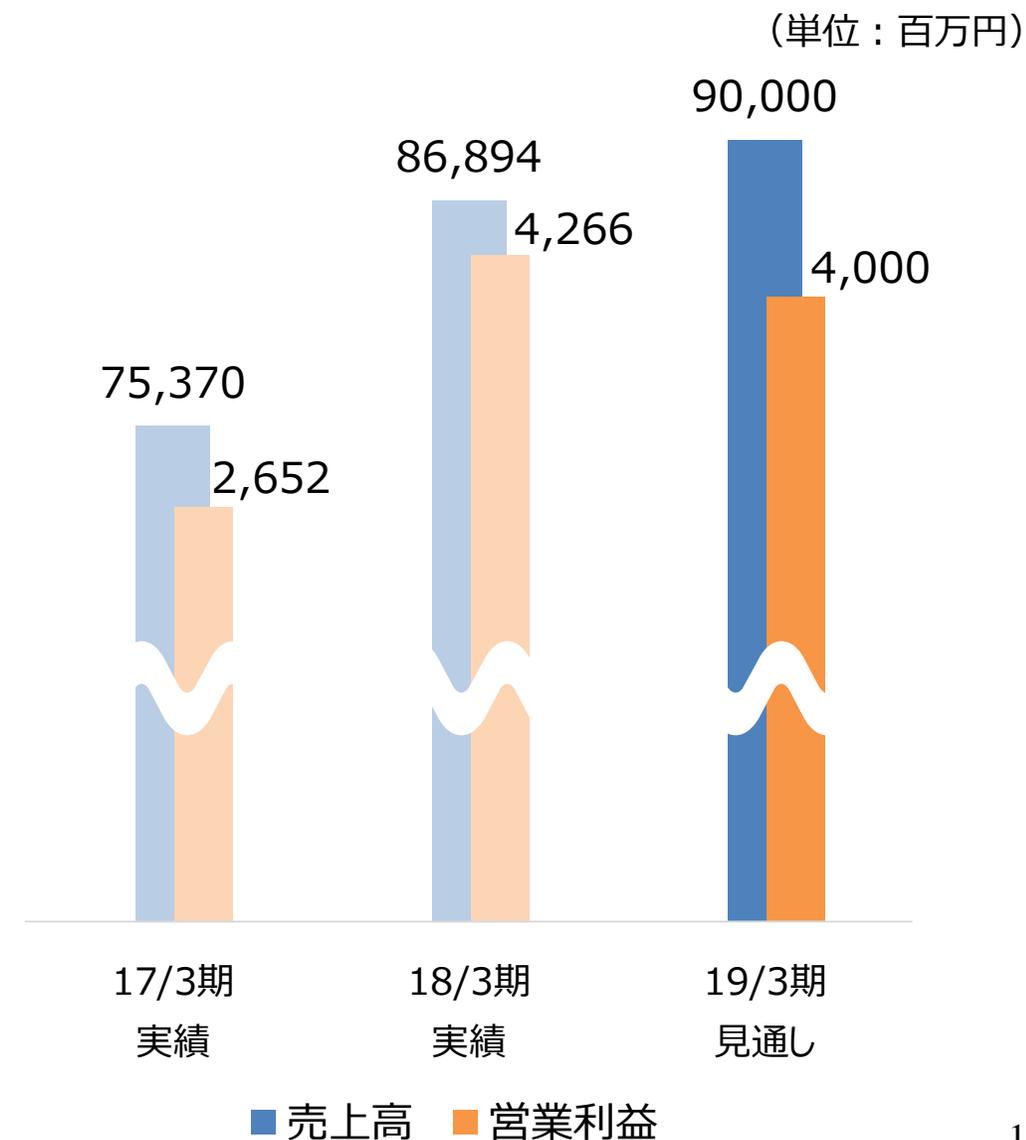
10円



## 2. 2019年3月期 連結業績見通し

## ① 見通しのポイント

- 車載向け需要は、電装化進展を背景に引き続き堅調に推移する見通し
- しかしながら、人民元・タイバーツが対米ドルで通貨高に推移しており、利益にマイナス影響を与える見通し
- 需給逼迫を起因とした材料価格上昇も当面継続する見通しであり、営業利益は減益を見込む



## ② 連結損益

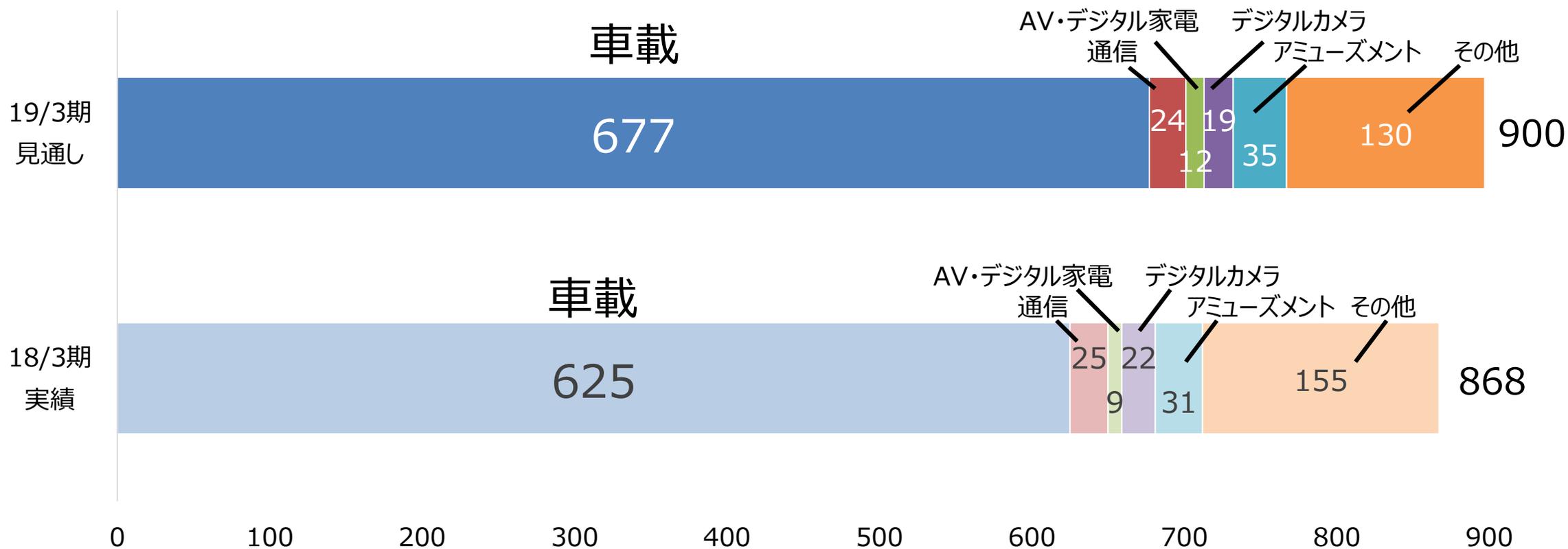
(単位：百万円)

	18/3期 実績	19/3期 見通し	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	86,894	90,000	+3,105	+3.6%
営業利益	4,266	4,000	-266	-6.2%
率	4.9%	4.4%	-0.5%	
経常利益	3,917	3,700	-217	-5.5%
当期純利益	3,638	3,000	-638	-17.5%
平均為替レート (USD/JPY)	112.04	110.00	-2.04	-1.8%

※「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」として記載

### ③用途別売上高

(単位：億円)



- 車載は、電装化進展を背景に堅調に推移する見通しであり、前年比8.3%増を見込む

## ④CMKタイ工場増設

19/3期-20/3期 能力増強 (2018年2月28日発表)

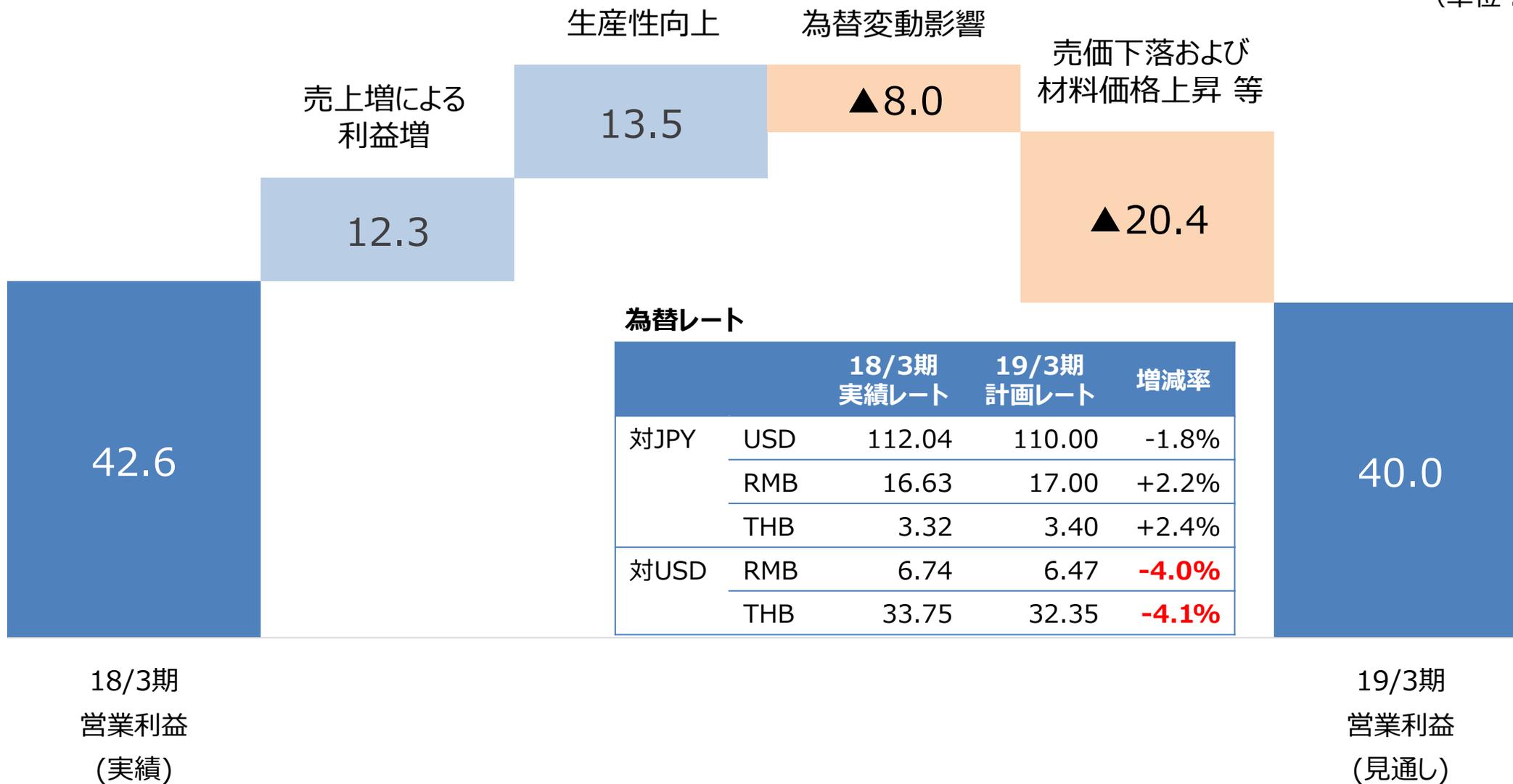
### CMKタイ

- 自動車の電装化進展により、車載基板の需要は今後ますます拡大する見通し
- グローバルで増大する車載基板需要を確実に取り込み、更なる収益拡大に繋げるため、工場増設を決定

所在地	タイ王国 プラチンブリ県 (304工業団地内)
生産品目	両面プリント配線板、多層貫通プリント配線板、ビルドアップ配線板
投資額	約50億円
稼働開始時期	2018年12月より順次 (予定)
増設後生産能力	現状比約25%増

# ⑤ 営業利益増減分析

(単位：億円)



# 3. 車載基板市場の動向について

# ①車載電子部品の方角性

## 社会環境

新興国経済成長

燃費規制強化

人手不足対応

高齢化対応

快適性への  
ニーズ高まり

技術革新

## 自動車業界

グローバル生産台数増加

次世代自動車(xEV)

先進運転支援システム(ADAS)

自動運転

コネクティッドカー

## 電子部品業界

電子部品  
の需要増

## ②市場拡大トレンド

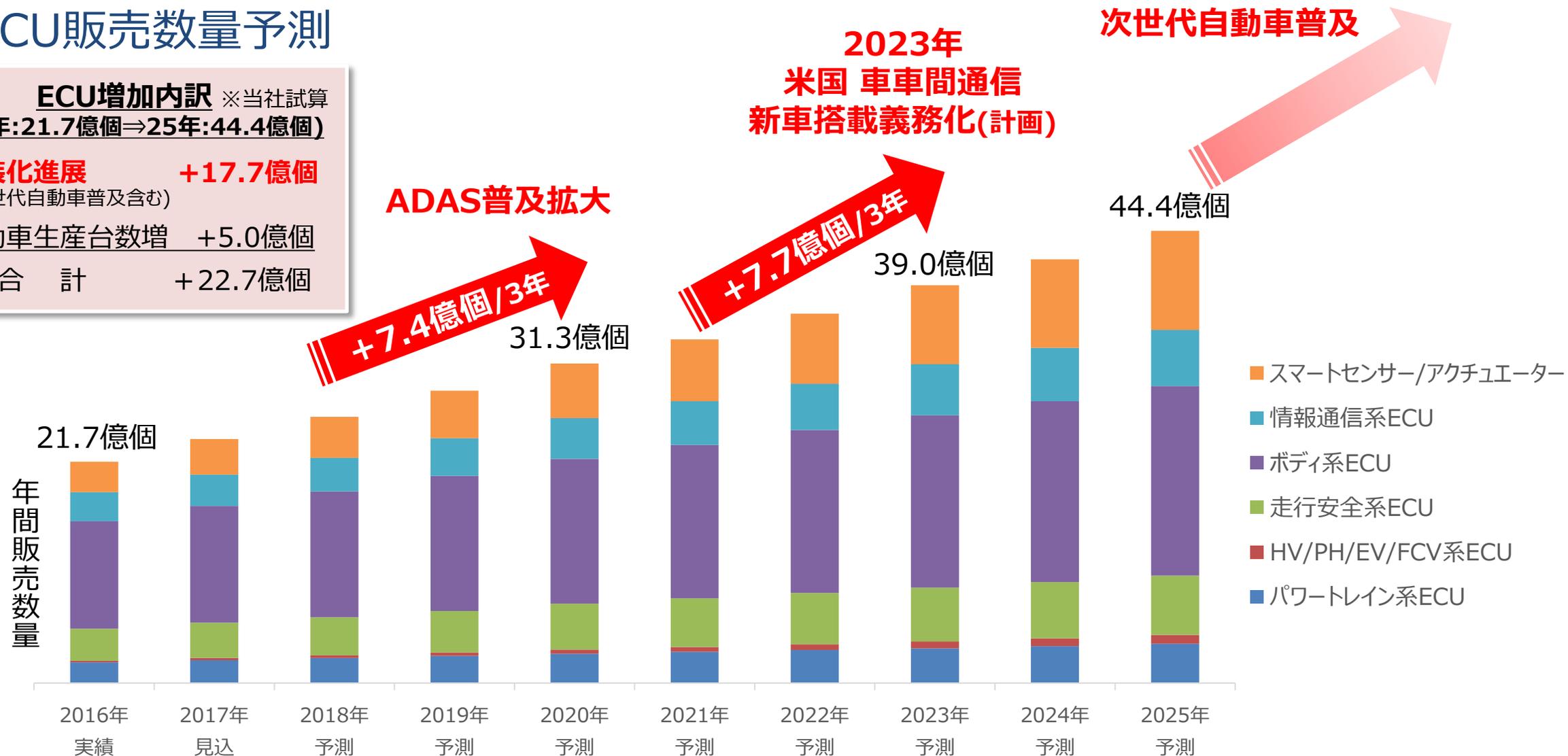
### ■ ECU販売数量予測

**ECU増加内訳** ※当社試算  
(16年:21.7億個⇒25年:44.4億個)

**電装化進展** +17.7億個  
(次世代自動車普及含む)

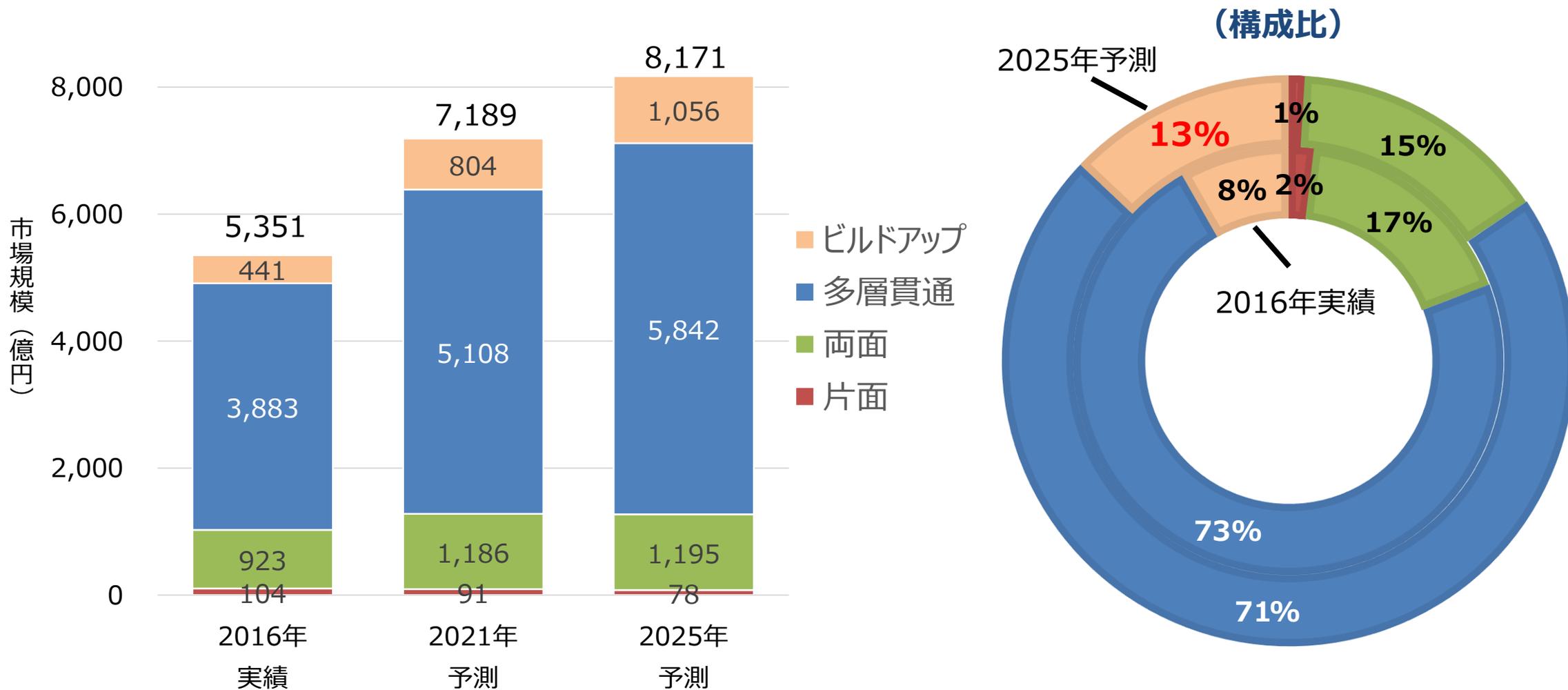
自動車生産台数増 +5.0億個

合計 +22.7億個



### ③車載基板市場の見通し

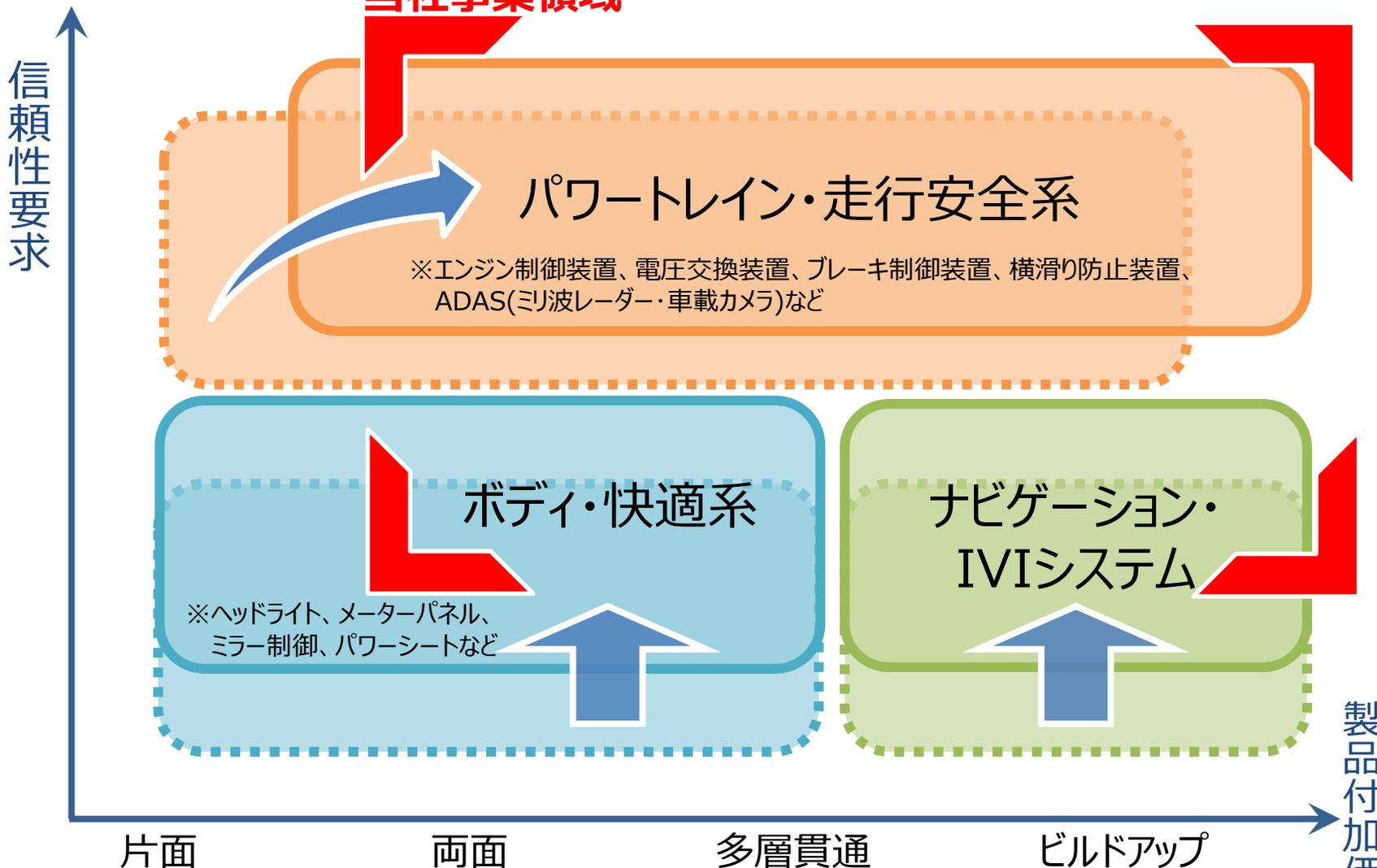
#### 車載向けリジット基板 市場規模予測



※出所：「車載電装デバイス&コンポーネンツ総調査2018《下巻：ECU関連デバイス編》」富士キメラ総研より当社作成

# ④ 車載基板のトレンド

当社事業領域



パワートレイン・走行安全系

※エンジン制御装置、電圧交換装置、ブレーキ制御装置、横滑り防止装置、ADAS(ミリ波レーダー・車載カメラ)など

ボディ・快適系

※ヘッドライト、メーターパネル、ミラー制御、パワーシートなど

ナビゲーション・IVIシステム

## ■ ビルドアップ化

- ▶ パワートレイン系ではマイコンのピン数増加により、ビルドアップの採用拡大
- ▶ 走行安全系では、ADASの普及により、リアルタイム処理が必要なミリ波レーダーや車載カメラ等でビルドアップ採用

## ■ 信頼性要求上昇

- ▶ コネクティッドカーの普及と自動制御化により、信頼性要求が上昇

製品付加価値

片面

両面

多層貫通

ビルドアップ

※IVIシステム(In-Vehicle Infotainment System) : 次世代車載情報通信システム

## 4. 中期経営計画について

## ①中期経営計画<2015-2017年度>の振り返り（総括）

### 販売面

- 民生分野の販売未達および円高進行により、計画には達せず
- 軸足に据えた車載分野では、自動車の電装化が加速し、想定を超える販売を達成

### 利益面

- 国内では生産拠点集約および生産性向上、海外では生産能力増強に注力し、収益性が改善
- ビルドアップ配線板の販売拡大により、プロダクト・ミックスも改善
- 材料価格上昇の逆風はあったが、営業利益率は4.9%、ROEは7.2%を達成

## ②中期経営計画<2015-2017年度>の振り返り（損益）

(単位：億円)

	中期経営計画 (2015/5/25発表)		
	16/3期	17/3期	18/3期
売上高	750	820	900
営業利益	15	25	45
率	2.0%	3.0%	5.0%
当期純利益	7	16	30

実績		
16/3期	17/3期	18/3期
730	753	868
3.8	26.5	42.6
0.5%	3.5%	4.9%
▲81.2	21.5	36.3

ROE	1.2%	2.9%	5.0%
平均為替レート (USD/JPY)	115.00	115.00	115.00

▲15.9%	4.5%	7.2%
121.04	109.28	112.04

※「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」として記載

### ③現状の課題

#### チャンス

- 車載基板市場は、2020年以降、急激な需要増加が見込まれる

#### リスク

- 材料価格の更なる上昇や、海外勢との競争激化も予想され、取り巻く環境は厳しさを増す見通し

#### 課題

- 新しい競争環境で勝ち残っていくためには、別次元の品質・信頼性とコスト競争力が求められる
- 現状をゼロベースから見直し、ものづくりとビジネスプロセスの再構築が必要

## ④ 2019年3月期の位置づけと中期経営計画

### 2019年3月期の位置づけ

- ① 4月1日発足の新経営体制の下、早急に全てのビジネスプロセス（設備・バリューチェーン・コーポレート機能など）を徹底点検
- ② 生産設備、製造プロセス、販売体制等の再構築計画とオーガニックにはこだわらない長期ビジョンを策定
- ③ 再構築計画に基づく投資・改革をスタート



当初5月に発表を予定していた新・中期経営計画は、  
年内発表予定

# 5. 補足資料

# ① ESG経営の推進

## 環境 (Environment)

CO2排出量削減、水使用量削減、  
資源リサイクル、省エネ更新 など

## 社会 (Society)

ダイバーシティ&インクルージョン、  
ワークライフバランス推進 など

## ガバナンス (Governance)

グループ経営強化、英語での情報開示、  
独立社外取締役2名選任 など

### <参考>

2018年7月には、  
従来の「CSR報告書」を  
「CMK Report」に  
リニューアルし、発刊する  
予定。

当社の活動をさまざまな  
ステークホルダーの皆様  
に継続的に分かり易く  
お伝えしていきます。

**長期的な企業価値の向上に向けて、  
ESGを重視した経営を推進**

## ②基板種類別売上高

(単位：億円)

	17/3期 実績	18/3期 実績	前年 同期比	19/3期 見通し	前年 同期比
ビルドアップ配線板	218	269	+50	304	+35
多層プリント配線板	319	370	+51	392	+21
両面プリント配線板	142	152	+9	149	-2
その他	72	76	+3	53	-23
合計	753	868	+115	900	+31

## ③地域別業績



(単位：億円)

	17/3期 実績		18/3期 実績		前年同期比	
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上	営業 利益
日本	491	15.2	526	26.9	+34	+11.6
中国	227	9.9	290	12.1	+62	+2.1
東南アジア	169	4.3	214	2.8	+44	-1.5
欧米	53	2.4	66	4.1	+12	+1.7
計	942	32.0	1,097	45.9	+155	+13.9
消去又は全社	▲189	▲5.5	▲228	▲3.3	-39	+2.1
連結	753	26.5	868	42.6	+115	+16.1

19/3期 見通し		前年同期比	
売上	営業 利益	売上	営業 利益
507	19.0	-19	-7.9
307	14.8	+17	+2.7
229	6.3	+15	+3.5
80	3.9	+14	-0.1
1,125	44.1	+27	-1.8
▲225	▲4.1	+3	-0.8
900	40.0	+31	-2.6

## ④設備投資

(単位：億円)

	17/3期 実績	18/3期 実績	前年 同期比	19/3期 見通し	前年 同期比
国内	17	15	-2	28	+13
海外	28	54	+26	71	+16
連結	46	70	+24	100	+30
減価償却費	41	41	0	46	+5

本資料における将来情報は、2018年5月時点での見通しであり、  
その実現を保証するものではありません。

(金額は切捨て、%は小数第二位を四捨五入にて表示)

END